

**Human swine flu cases with unique strain raise concern** CIDRAP (米国、ミネソタ大学感染症センター) 新規ブタインフルエンザ発病事例が懸念

2009/4/22

カリフォルニアで、ブタに接触既往がない小児2人が、新型ブタインフルエンザウイルスに感染し、発病したことが米国CDCから本日発表され、ウイルスが人人感染を起こした可能性が懸念されている。

1人はサンジヤゴ郡の10歳少年で、もう1人は隣接するインペリアル郡の9歳少女である。しかし両者は全く無関係であることが、本日発行されたCDCの報告レポートである”*MMWR Dispatch*”で伝えられている。

「両者から分離されたウイルス遺伝子は極めて類似しており、古い抗インフルエンザ薬のアマンタジンやリマンタジンに耐性で、これまでブタや人で見つかったことがない、特異的遺伝子が含まれている」と、CDC報告では伝えている。

2発病者共、ブタに接触した既往がないことから、他の感染者からウイルス感染を受けた可能性が高く、CDCでは医師に、カリフォルニアの上記2郡に最近いた人々、またはブタに接触したい人々の”ブタインフルエンザ”発病について注意を喚起している。

CDCは2005年12月から2009年1月まで12人のブタインフルエンザ発病者の報告を受けているという。それまでは1、2年に1人の発病者であったことから考えると、ブタインフルエンザ発病者が増加してきている。これらの例で人人感染が起きはしなかったが、全例とも十分に調査される必要があると、CDCでは言っている。

### 3月に発病

10歳少年は3月30日に発熱、咳、および嘔吐を呈した。少年は近くの医療機関を受診し、対症的治療を受け、約1週間で治癒した。少年は今季インフルエンザワクチンの接種は受けていなかった。本人と家族の話では、ブタとの接触は一切なかったという。

医療機関における初期の検査では、A型インフルエンザが示唆されたが、H1N1、H3N2、およびH5N1ウイルスはさらなる詳細検査で陰性だった。サンプルは4月14日にCDCに送られ、ウイルスがブタインフルエンザA/H1N1であることが確認された。

少年の母親は4月初旬に無熱ではあったが、呼吸器症状を呈したとされ、8歳の弟は4月14日に発熱と咳を呈したが、ウイルス検査は受けていない。

他の事例は、4月17日にCDCにサンジヤゴの海軍健康研究センターから同定不可能A型イ

インフルエンザウイルスとして送られてきた。CDCでは1例目と同じように、ブタインフルエンザウイルス A/H1N1 であることを同日確認した。

この検体の事例である9歳少女は、発熱と咳で3月28日発病したと報告書は伝えている。少女は医療機関の外来で抗生物質と抗ヒスタミン剤で治療を受け、偶発的に改善したとされる。

報告書によると、少女は発病4週間前にブタ展示会（フェア）に出かけたが、ブタは見なかったという。そのほかブタと接触する機会もなかったとされる。

少女の従姉の13歳少女（同居している）も、少女が発病する3日前にインフルエンザ様症状を呈していたとされる。さらに13歳兄も4月1日に同様にインフルエンザ様症状を呈していたと、CDCの報告書では伝えている。しかし両者ともウイルス検査は受けていない。

これまで2人の発病小児の間には何等接点はなく、この新規ウイルスによる発病者の報告もないと、報告書では伝えている。

現在、郡とCDCが接触者等の調査を行っている。

#### 新遺伝子配列を確認

2人の患者から分離されたウイルスは互いに類似している。そしてヘマグルチニン遺伝子を含めて、遺伝子の大多数は1999年以来米国内で感染を起こしているブタインフルエンザウイルスの遺伝子と類似している。

しかし、ニューラミニダーゼ（NA）と器質蛋白（M）は、ユーラシア・ブタインフルエンザウイルスの遺伝子に類似している。

「この遺伝子配列は、これまでブタや人から分離された（ブタ）ウイルスでは認められたことはなかった」、と報告書では伝えている。

これら分離ウイルスがニューラミニダーゼ阻害薬（タミフルやリレンザ）に感受性があるか分析中とされる。

CDCは、以下の条件に該当する人々がインフルエンザ様症状を呈した場合、季節性インフルエンザだけでなく、動物由来インフルエンザも考慮すべきと、医師達に注意を促している。

インフルエンザ様症状を呈した人で：

- ・サンジエゴまたはインペリアル郡に住んでいたか、訪ねた人
- ・1週間以内に両郡で発病した患者に接触した人